

編集後記

「核医学」は本号をもって第50巻となります。前号の編集後記にて、「ANMは変革期にある」と絹谷編集長が書かれていますが、和文誌も第50巻に突入し、両学会誌の更なる飛躍に向けて、より一層の緊張感を持って編集作業に携わって参りたいと考えています。

最近、「セラノスティックス(Theranostics)」という言葉を目にする機会が多くなったように思います。治療学(Therapeutics)と診断学(Diagnostics)の合体した言葉で、診断と治療を統合する研究領域と考えられ、すでに「Theranostics」という雑誌も刊行されています。診断と治療を密に連携させることで、個別の疾患の特性に合わせた治療を施す個別化医療や、ある治療法が奏功すると思われる患者を選択して治療を行う予測治療、等への貢献が期待されます。核医学分野においては、バセドウ病患者の甲状腺シンチをもとに治療に必要なI-131投与量を計算する、甲

状腺がんのI-131治療後にイメージングを行い、その分布を確認する、In-111抗体シンチからY-90抗体治療の副作用を予測する、など、日常的にセラノスティックスを実践しています。また、分子イメージング研究の進歩により、様々な分子標的の発現をイメージングで捉え、それに見合った分子標的治療薬を選択することが可能になるとともに、標識する放射線核種を変えることにより、診断プローブを治療プローブに転換することもできます。ナノ粒子を用いたドラッグ・デリバリー・システムが最近注目されていますが、ナノ粒子にイメージング能を付加することにより、治療過程のリアルタイムイメージングも可能になります。このように、核医学・分子イメージング研究を進めるにあたって、セラノスティックスを視野に入れつつ研究を進めることが重要だと思っています。

(佐賀 恒夫)

核医学編集委員会

委員長：	絹谷清剛	(金沢大学医薬保健研究域医学系核医学)
副委員長：	佐賀恒夫	(放射線医学総合研究所 分子病態イメージング研究プログラム)
委員：	犬伏正幸	(川崎医科大学 放射線医学(核医学))
	金田朋洋	(東北大学病院 放射線診断科)
	河邊讓治	(大阪市立大学大学院医学研究科 核医学科)
	河村和紀	(放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ)
	久慈一英	(埼玉医科大学国際医療センター 核医学科)
	坂本撮影	(獨協医科大学病院 PETセンター)
	田代学	(東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター)
	東達也	(滋賀県立成人病センター研究所)
	百瀬満	(東京女子医科大学 画像診断・核医学科)
	渡部浩司	(大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座)

「核医学」第50巻1号 平成25年2月28日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹谷清剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 (公社)日本アイソトープ協会本館3階

発行所 一般社団法人 日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社 海川企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社